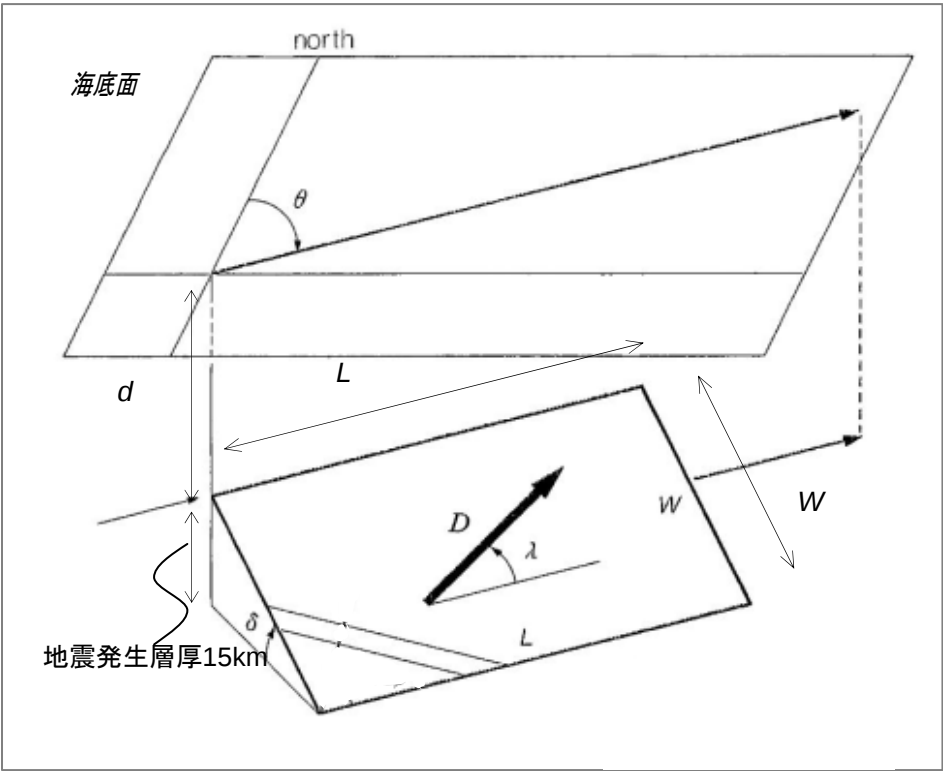


断層パラメーター一覧

断層名		1 日本海東縁部	2 能登半島 東方沖	3 能登半島 北方沖	4 石川県西方沖
想定 マグニチュード	Mw	7.99	7.58	7.66	7.44
気象庁 マグニチュード	Mj	8.54	8.03	8.13	7.85
気象庁 マグニチュード	Mj	8.54	8.02	8.13	7.85
断層長(km)	L	167	82	95	65
幅(km)	W	17.32	17.32	17.32	17.32
地震モーメント (N・m)	Mo	1.22E+21	2.95E+20	3.89E+20	1.82E+20
すべり量(m)	D	12.01	5.94	6.76	4.62
上縁深さ(km)	d	0	0	0	0
傾斜角	δ	60	60	60	60
すべり角	λ	90	90	90	90

断層モデルの設定



断層モデル（佐藤編(1989)を改変）

断層長 L (km)	活断層調査結果に基づく
断層幅 W (km)	地震発生層の厚さを考慮し傾斜角に応じて決める。 地震発生厚さは 15km とする。
すべり量 D (m)	$\log M_0 \text{ (N}\cdot\text{m)} = 1.5 M_w + 9.1$ $D = M_0 / \mu L W$ により算定する。
上縁深さ d (km)	0 km とする。※解析上 1km として取り扱った。
走向 θ	活断層調査結果に基づいて設定する。
傾斜角 δ	60° とする。
すべり角 λ	90° とする。
剛性率 μ	$3.5 \times 10^{10} \text{ (N/m}^2\text{)}$
波源設定方法 の基本的考え方 スケーリング則	地震発生層の厚さを考慮し、武村（1998）に基づくスケーリング則を適用する。 武村（1998） $\log L = 0.75 M_w - 3.77$ L : 断層長さ(km) Mw : モーメントマグニチュード

「原子力発電所の津波評価技術 2002／土木学会原子力土木委員会 津波評価部会」を参考